

議案第 98 号

ひたちなか市建築基準条例の一部を改正する条例制定について

ひたちなか市建築基準条例の一部を改正する条例を別紙のとおり制定する。

令和元年 8月29日 提出

ひたちなか市長 大 谷 明

令和 年 月 日 議決

ひたちなか市条例第 号

ひたちなか市建築基準条例の一部を改正する条例

ひたちなか市建築基準条例（平成12年条例第19号）の一部を次のように改正する。

第28条中「第129条の2の3第1項第1号ロに掲げる基準」を「第112条第2項に掲げる一時間準耐火基準」に改める。

第29条第1号中「第112条第13項第1号」を「第112条第18項第1号」に改める。

第47条中「第112条第13項第2号」を「第112条第18項第2号」に改める。

第48条第1項中「第112条第13項第1号」を「第112条第18項第1号」に改める。

第49条中「第112条第13項第1号」を「第112条第18項第1号」に改め、同条ただし書中「第112条第9項本文」を「第112条第10項本文」に改める。

第50条第1項第1号中「第112条第13項第2号」を「第112条第18項第2号」に改める。

第53条の2中「第112条第14項」を「第112条第19項」に、「同条第15項」を「同条第20項」に改める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

旧	新	備考
<p>(自動車車庫等の用途に供する部分の構造)</p> <p>第28条 次の各号のいずれかに該当する建築物の一部分を自動車車庫又は自動車修理工場の用途に供する場合は、当該部分の主要構造部を、<u>令第129条の2の3第1項第1号</u>に掲げる基準に適合する準耐火構造としなければならない。</p> <p>(1)・(2) 略</p>	<p>(自動車車庫等の用途に供する部分の構造)</p> <p>第28条 次の各号のいずれかに該当する建築物の一部分を自動車車庫又は自動車修理工場の用途に供する場合は、当該部分の主要構造部を、<u>令第112条第2項</u>に掲げる一時間準耐火基準に適合する準耐火構造としなければならない。</p> <p>(1)・(2) 略</p>	
<p>(自動車車庫等の用途に供する部分とその他の部分との区画)</p> <p>第29条 自動車車庫又は自動車修理工場の用途に供する建築物においては、それらの用途に供する部分とその他の部分との区画は、次の各号に定めるところによらなければならない。</p> <p>(1) 床及び壁は、準耐火構造とし、その開口部には、法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で<u>令第112条第13項第1号</u>又は第2号に規定する構造であるものを設けること。</p> <p>(2) 略</p>	<p>(自動車車庫等の用途に供する部分の構造)</p> <p>第29条 自動車車庫又は自動車修理工場の用途に供する建築物においては、それらの用途に供する部分とその他の部分との区画は、次の各号に定めるところによらなければならない。</p> <p>(1) 床及び壁は、準耐火構造とし、その開口部には、法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で<u>令第112条第18項第1号</u>又は第2号に規定する構造であるものを設けること。</p> <p>(2) 略</p>	
<p>(客席部と舞台部との区画)</p> <p>第47条 舞台の床面積の合計が100平方メートルを超える興行場等は、客席部と舞台部（花道その他これに類するものを除く。以下同じ。）との境界に区画（上階の床又は屋根裏まで達する耐火構造の壁で区画するとともに、その開口部に法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で<u>令第112条第13項第2号</u>に規定する構造であるもの又はこれらと同等以上の防火性能を有すると認められる設備を設けたものに限る。次項において同じ。）を設けなければならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>(1)・(2) 略</p> <p>2 略</p> <p>3 第1項の規定にかかわらず、舞台の床面積の合計が300平方メートルを超える興行場等については、区画の開口部に特定防火設備で<u>令第112条第13項第2号</u>に規定する構造であるもの又はこれと同等以上の性能を有すると認められる設備を設けなければならない。</p>	<p>(客席部と舞台部との区画)</p> <p>第47条 舞台の床面積の合計が100平方メートルを超える興行場等は、客席部と舞台部（花道その他これに類するものを除く。以下同じ。）との境界に区画（上階の床又は屋根裏まで達する耐火構造の壁で区画するとともに、その開口部に法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で<u>令第112条第18項第2号</u>に規定する構造であるもの又はこれらと同等以上の防火性能を有すると認められる設備を設けたものに限る。次項において同じ。）を設けなければならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>(1)・(2) 略</p> <p>2 略</p> <p>3 第1項の規定にかかわらず、舞台の床面積の合計が300平方メートルを超える興行場等については、区画の開口部に特定防火設備で<u>令第112条第18項第2号</u>に規定する構造であるもの又はこれと同等以上の性能を有すると認められる設備を設けなければならない。</p>	

旧	新	備考
<p>(舞台部の各室の区画避難)</p> <p>第48条 舞台部においては、舞台とこれに接する各室とを、準耐火構造の壁又は法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で令第112条第13項第1号若しくは第2号に規定する構造であるもので区画しなければならない。</p> <p>2～3 略</p> <p>(映写室)</p> <p>第49条 映写室は、耐火構造の床若しくは壁（木造の興行場等にあつては、準耐火構造の床若しくは壁）又は法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で令第112条第13項第1号若しくは第2号に規定する構造であるもので区画しなければならない。ただし、令第112条第9項本文の適用がない映写室の映写のために必要な開口部で、その面積が1平方メートル以内であり、かつ、不燃材料で造られたものについては、この限りでない。</p> <p>(主階が避難階以外にある興行場等)</p> <p>第50条 主階が避難階以外にある興行場等の用途に供する部分を持つ建築物は、次の各号によらなければならない。</p> <p>(1) 耐火建築物又は法第27条第1項の規定に適合する建築物とし、かつ、他の用途に供する部分とを耐火構造の床若しくは壁又は特定防火設備で令第112条第13項第2号に規定する構造であるもので区画すること。</p> <p>(2)・(3) 略</p> <p>2 略</p> <p>(耐火構造等の床等を貫通する建築設備)</p> <p>第53条の2 この章の規定により耐火構造又は準耐火構造としなければならない床又は壁（外壁を除く。以下同じ。）を給水管、配電管その他の管又は換気、暖房若しくは冷房の設備の風道が貫通する場合においては、当該床又は壁を令第112条第14項に規定する準耐火構造の防火区画とみなして、同項及び同条第15項の規定を適用する。</p>	<p>(舞台部の各室の区画避難)</p> <p>第48条 舞台部においては、舞台とこれに接する各室とを、準耐火構造の壁又は法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で令第112条第18項第1号若しくは第2号に規定する構造であるもので区画しなければならない。</p> <p>2～3 略</p> <p>(映写室)</p> <p>第49条 映写室は、耐火構造の床若しくは壁（木造の興行場等にあつては、準耐火構造の床若しくは壁）又は法第2条第9号の2ロに規定する防火設備で令第112条第18項第1号若しくは第2号に規定する構造であるもので区画しなければならない。ただし、令第112条第10項本文の適用がない映写室の映写のために必要な開口部で、その面積が1平方メートル以内であり、かつ、不燃材料で造られたものについては、この限りでない。</p> <p>(主階が避難階以外にある興行場等)</p> <p>第50条 主階が避難階以外にある興行場等の用途に供する部分を持つ建築物は、次の各号によらなければならない。</p> <p>(1) 耐火建築物又は法第27条第1項の規定に適合する建築物とし、かつ、他の用途に供する部分とを耐火構造の床若しくは壁又は特定防火設備で令第112条第18項第2号に規定する構造であるもので区画すること。</p> <p>(2)・(3) 略</p> <p>2 略</p> <p>(耐火構造等の床等を貫通する建築設備)</p> <p>第53条の2 この章の規定により耐火構造又は準耐火構造としなければならない床又は壁（外壁を除く。以下同じ。）を給水管、配電管その他の管又は換気、暖房若しくは冷房の設備の風道が貫通する場合においては、当該床又は壁を令第112条第19項に規定する準耐火構造の防火区画とみなして、同項及び同条第20項の規定を適用する。</p>	